

## 授業概要

本演習は、心理学の見方・考え方を働かせ、専門書を読み、口頭発表の練習や討論をおこなうことを通して、子どもたちの自立的な学びを支援する授業づくりについて理解を深めたい。春期では、動機づけ（やる気）に関する、心理学の代表的な理論について理解を深める。秋期では、心理学の理論と実際の授業の関係について、授業実践を基に考えを深める。教員志望の学生はもちろん、子どもの学びやその支援に関心のある学生の参加を歓迎する。

## 授業計画

第1回	オリエンテーション・春期担当決め	第16回	秋期担当決め
第2回	自分のやる気について振り返る(1)	第17回	令和の日本型学校教育
第3回	好きこそもの上手なれ	第18回	子どもが自立的に学び進める学習
第4回	夢や目標をもって生きよう！	第19回	近代学校の子どもの観とその問い直し
第5回	生物の根源的な動機を考える	第20回	すべての子どもは有能な学び手
第6回	努力は自分のためならず	第21回	子どもは一人ひとり違っている
第7回	知られざる力	第22回	自己決定的学習と環境による教育
第8回	楽しさと最適発達の現象学	第23回	ICTという新たな道具立てを得て
第9回	何を指して学ぶか	第24回	教師の専門性を問い直す
第10回	自分のことをどう捉える？	第25回	授業分析の方法
第11回	「できる」はできるという信念で決まる	第26回	授業実践見学
第12回	自分の学習に自分から積極的に関わる	第27回	授業実践検討(1)
第13回	どうして無気力になるのか	第28回	授業実践検討(2)
第14回	自分や周りの人のやる気に働きかける	第29回	授業実践検討(3)
第15回	自分のやる気について振り返る(2)	第30回	秋学期のまとめ

## 到達目標

- ・動機づけについて、理論と実践の双方から理解を深める。
- ・授業実践について、心理学的な視点から考えることができる。
- ・リサーチや文章執筆、資料作成、プレゼンテーションのスキル、質問のスキルを磨く。

## 履修上の注意

- ・教員志望など、学校教育に強い関心のある学生の参加を推奨する。
- ・毎回の授業では、受講生全員が積極的に議論に参加すること。
- ・秋期に、課外に学校見学に行く可能性がある。

## 予習・復習

- ① テキストは毎回必ず各自事前に目を通しておく
- ② 自分の発表については、レジュメを作成する。

## 評価方法

授業に対する姿勢（発表準備や質疑応答への参加）80%、レポート 20%

## テキスト

- |                                 |                                 |
|---------------------------------|---------------------------------|
| ・教科書名：個別最適な学びと協働的な学び            | ・参考書名：モチベーションをまなび 12 の理論        |
| ・著者名：奈須正裕                       | ・著者名：鹿毛雅治（編）                    |
| ・出版社名：東洋館出版社                    | ・出版社名：金剛出版                      |
| ・出版年(ISBN):2021年(9784491047263) | ・出版年(ISBN):2012年(9784772412490) |

## 授業概要

今年度伊藤基礎演習の共通テーマは、西洋文化の「普遍性」とします。ヨーロッパに起源を有する西洋文化には、ヨーロッパ以外のほとんどの諸文化に受け入れられるという、「普遍性」が備わっています。かつてドイツ 20 世紀を代表する社会学者マックス・ウェーバーは、ヨーロッパ文化の特質をこの「普遍性」に求めたのでした。もちろん世界各地にはそれぞれのローカルな民族文化が存在し、それらには西洋文化にはない魅力があることは確かです。そしてそのいくつかは、現在世界に広く受け入れられているものもあります。しかしそれらは西洋文化を経由して世界に受け入れられたのでした。西洋文化はローカルな文化が世界にアクセスするためのアプリのようなものと、みることもできます。その秘密を、討論を通して深めてみましょう。

## 授業計画

第 1 回	春期概要説明：テキスト選定の目的・狙い	第 16 回	春期成果の確認 秋期概要説明
第 2 回	『フランス・ルネサンスの人々』①：主題の説明	第 17 回	ヨーロッパとは何か①：主題説明
第 3 回	② ある古典学者の話	第 18 回	ヨーロッパとは何か②：増田史郎の視点
第 4 回	③ ある外科医の話	第 19 回	ヨーロッパとは何か③：増田史郎の視点
第 5 回	④ ある陶工の話	第 20 回	ヨーロッパとは何か④：増田史郎の視点
第 6 回	⑤ ある宰相の話	第 21 回	ヨーロッパとは何か⑤：増田史郎の視点
第 7 回	⑥ ある占星師の話	第 22 回	小括：ヨーロッパ中世のイメージ
第 8 回	⑦ ある出版屋の話	第 23 回	ヨーロッパ人の自画像①：フェーブル
第 9 回	⑧ ある東洋学者の話	第 24 回	ヨーロッパ人の自画像②：フェーブル
第 10 回	⑨ ある王公の話	第 25 回	ヨーロッパ人の自画像③：フェーブル
第 11 回	⑩ ある神学者の話 (a)	第 26 回	ヨーロッパ人の自画像④：フェーブル
第 12 回	⑪ ある教祖の話 (a)	第 27 回	ヨーロッパ人の自画像⑤：フェーブル
第 13 回	⑫ ある教祖の話 (b)	第 28 回	ヨーロッパ人の自画像⑥：フェーブル
第 14 回	⑬ ある神学者の話 (b)	第 29 回	小括：ヨーロッパ文化の普遍性を巡って
第 15 回	春期成果のまとめと秋期準備：各自研究テーマの開示と課題小論文の指定	第 30 回	今年度演習の総括 各自の研究成果と課題について総評

## 到達目標

プレゼンテーション能力を高め、実社会で職業人として活躍できる資質を養います。

- ・自分と異なる意見を尊重（共生）し、自分の意見をしっかりと表明できる。
- ・世界史における「西洋」の位置を理解し、自分自身の問題意識を持つことができる。

## 履修上の注意

- ・「西洋史入門」や「西洋史概説」の受講を推奨します。ただし意欲さえあればこれらを受講していない諸君の参加も歓迎します。
- ・やむを得ない欠席や遅刻・早退は、事前に指導教員に通知し、了解を取らなければいけません。

## 予習・復習

演習は、全員が力を合わせ、心を一つにして初めて成り立つ授業です。そのためにはメンバー皆が、事前に時間を十分にかけて、入念に準備して臨むことが必要です。春期ではテキストを十分に読み込んで参加してください。秋期には、プレゼンターを毎回指名します。プレゼンターは報告レジュメ（発表骨子）を作成し、ゼミで披露します。その他のメンバーは、プレゼンターのために建設的な批判ができるよう準備してください。

## 評価方法

- ・レジュメ並びに小論文の内容の的確さと発表者の論点の独自性、プレゼンテーションやコメントの姿勢の真摯さ、そして演習という共同作業にどれほど貢献できたかを審査し、総合的に評価します

## テキスト

- ・教科書名：『フランス・ルネサンスの人々』
- ・著者名：渡辺一夫
- ・出版社名：岩波書店（岩波文庫）
- ・出版年：2014年

## 授業概要

本演習では、3年次の専門演習に向けて、口頭報告・質疑応答の練習を主に行っていくものとします。特に、前近代における天皇に焦点を当て、論文・文献や史料などの探し方、レジュメの作り方なども含めて指導します。また、天皇に関わる動画を実際に視聴し、それをもとに討論をすることで、自分の疑問や意見を持つとともに、それを適切に言語化することや、他者の意見を踏まえての自説構築の練習も行います。

天皇にあまり関心がない学生もいるかもしれませんが、現代の『日本国憲法』において、天皇・天皇制のあり方は、我々日本国民の総意に基づくと規定されています。従って天皇・皇族・天皇制の将来を決めるのは、他でもない皆さんです。決して他人事ではありません。ぜひ関心を持って取り組み、理解を深めるとともに、自分の考えを持ち、他者にきちんと伝えられる力を養いましょう。

## 授業計画

第1回	春期ガイダンス	第16回	秋期ガイダンス
第2回	史料批判について	第17回	「天皇」号の歴史
第3回	論文・史料の探し方	第18回	皇位継承儀礼
第4回	『天皇はいかに受け継がれたか』講読①	第19回	天皇の変質
第5回	『天皇はいかに受け継がれたか』講読②	第20回	令和の皇位継承をみる 前近代史の視点から①
第6回	『天皇はいかに受け継がれたか』講読③	第21回	令和の皇位継承をみる 前近代史の視点から②
第7回	『天皇はいかに受け継がれたか』講読④	第22回	令和の皇位継承をみて①
第8回	『天皇はいかに受け継がれたか』講読⑤	第23回	令和の皇位継承をみて②
第9回	史料をみる—博物館見学	第24回	令和の皇位継承をみて③
第10回	『天皇はいかに受け継がれたか』講読⑥	第25回	学術論文講読①
第11回	『天皇はいかに受け継がれたか』講読⑦	第26回	学術論文講読②
第12回	『天皇はいかに受け継がれたか』講読⑧	第27回	学術論文講読③
第13回	『天皇はいかに受け継がれたか』講読⑨	第28回	学術論文講読④
第14回	『天皇はいかに受け継がれたか』講読⑩	第29回	学術論文講読⑤
第15回	春期まとめ	第30回	秋期まとめ

## 到達目標

- ・自分なりの意見を持つとともに、それを相手に適切に伝えることができる。
- ・他者の意見を尊重しつつ、自分の意見をまとめなおすことができる。
- ・古代に生まれた天皇がその後如何にして変質し存続したかを具体的に理解することができる。

## 履修上の注意

インターネットからの根拠不明・曖昧な情報を鵜呑みにせず、客観的根拠に基づく意見構築を行ってください。実際の受講人数などによって、シラバスを多少変更する場合があります。報告者は欠席・遅刻厳禁です。

## 予習・復習

各回の報告者は、必ず授業開始前までにレジュメを用意すること。  
報告者以外も、テキストの報告に関わる部分を事前に読んでおくこと。  
授業後は、質疑応答での意見や質問を踏まえてレジュメを見直し、期末レポートに繋げること。

## 評価方法

各回での報告・質疑応答での態度や、期末レポートで判断する。  
レポート(40%)、報告(40%)、授業態度(20%)

## テキスト

- ・教科書名：『天皇はいかに受け継がれたか—天皇の身体と皇位継承』
- ・著者名：歴史学研究会編・加藤陽子責任編集
- ・出版社名：積文堂出版
- ・出版年 (ISBN)：2019

### 授業概要

私たちは毎日、浴びるように情報を受け取る。一説では、江戸時代に生きた人の一生分の情報を私たちは毎日享受していると言われている。

本講義では日常の情報文化を見据えつつ、近代以降の歴史的事象から「現在」を繙いていく。またメディア論の基礎をふまえ、映像、ニュース、広告、などの具体的な素材から、日常における情報のあり方、私たちのメディア利用行動やリアリティ意識の変容など、「私たち」とメディアをめぐる問題を学ぶ。

授業の終わりに、講義を聞いて自分が考えたことを小レポートとして書いてもらう。それを踏まえ、次回の授業でフィードバックを行う。その際、積極的な意見交換を行う。

学期末レポートは、講義内容に関連する参考文献を探し出し、自己の学んだことをいかしつつ、「視覚情報」の役割としてのメリット、デメリットを踏まえ記述する。

### 授業計画

第1回	SNS 活用方法前編	第16回	海外メディアからみる日本
第2回	SNS 活用方法後編	第17回	コロナ渦のテレビニュース
第3回	大手メディアと個人メディアの差異	第18回	コロナ渦のSNS
第4回	フェイクニュース	第19回	「映像の世紀」の「神」の声
第5回	視覚化されるメディア 瓦版から新聞へ	第20回	自由民権運動とメディア
第6回	挿絵の役割	第21回	宮武外骨の登場
第7回	人気の挿絵家たち	第22回	プロパガンダとは何か
第8回	新聞販売促進のための漫画	第23回	戦前の子ども雑誌
第9回	輸入された視覚文化	第24回	戦前の少年雑誌
第10回	日本における写真の誕生	第25回	戦前の少女雑誌
第11回	日本における映画の誕生	第26回	紙芝居とプロパガンダ
第12回	写真小説	第27回	広告
第13回	初期アニメーション前編	第28回	桃太郎の海鷲
第14回	初期アニメーション後編	第29回	ディズニーのプロパガンダアニメ
第15回	前期のまとめ	第30回	後期のまとめ

### 到達目標

- ・メディアリテラシーを獲得することにより、受動的立場だけでなく、能動的な立場としての「メディア」を考えることができる。
- ・特に「絵」を使用することの利点、逆に政治的にどのように利用されたかを理解することができる。

### 履修上の注意

- ・授業中にノートを取り、わからなかったことについては調べてくること。
- ・中学、高校で用いた「歴史」の教科書を下敷きとし、メディアが歴史とどのようなつながりがあるのか確認する。

※進行状況により授業内容を変更する場合がある。

### 予習・復習

予習：授業最後に次回の予習箇所を伝える。

復習：小レポートからの疑問や不明な点を、学期末レポートに反映していく。

### 評価方法

- ・授業中の質問に積極的に答える。
- ・授業後に記入する小レポートの内容を重視する。
- ・授業態度 20%、授業内レポート 40%、学期末レポート 40%。

### テキスト

- ・必要に応じ、適宜指導する。

## 授業概要

この基礎演習では、イギリスの文化、風習、歴史についての知識を深めることを通して、次年度の専門演習において必要な力を総合的に養うことを目指す。

春期には、イギリスの文化、風習、歴史全般について扱う。時には読んだ文章を批判的に分析してエッセイを書き、時には絵画等を鑑賞し、自分自身が感じたことをアウトプットする練習をする。

秋期には、主に、各自イギリスに関するトピックの中から関心のあるテーマをひとつ選び、それについて発表を行う。事前にプレゼンテーションの仕方を確認する。

ヨーロッパの一国の文化、風習、歴史に目を向けることによって、その分野の知識を身につけるとともに、日本とは異なった文化、風習に触れて、さらに広い視野に立って物事をとらえられる一助となれば幸いである。

## 授業計画

第 1 回	イントロダクション	第 16 回	秋期のイントロダクションと復習
第 2 回	イギリスについて：概論	第 17 回	プレゼンテーションの仕方
第 3 回	イギリスの食文化	第 18 回	アーサー王伝説
第 4 回	イギリスの 4 つの地域：概論	第 19 回	映画視聴：アーサー王関連（前半）
第 5 回	イギリスの 4 つの地域：ケルト人の地域	第 20 回	映画視聴：アーサー王関連（後半）
第 6 回	イギリスの宗教	第 21 回	児童文学
第 7 回	イギリスの階級	第 22 回	受講生の発表(1)
第 8 回	イギリスのスポーツ	第 23 回	受講生の発表(2)
第 9 回	イギリスの教育制度	第 24 回	受講生の発表(3)
第 10 回	イギリス美術：風景画の発達	第 25 回	受講生の発表(4)
第 11 回	イギリス美術：コンスタブルとターナー	第 26 回	受講生の発表(5)
第 12 回	イギリスの社会福祉制度	第 27 回	受講生の発表(6)
第 13 回	イギリスの民俗行事と風習：前半	第 28 回	予備日（未発表者のため）
第 14 回	イギリスの民俗行事と風習：後半	第 29 回	イギリスの音楽
第 15 回	春期の総まとめ	第 30 回	総まとめ

\*授業の内容、進度は、ゼミ生の人数等によって若干変更されることがある。

## 到達目標

イギリスの文化、風習、歴史についての知識を深めることを通して、専門演習で必要となるレベルの日本語の運用力を総合的に身につけることができる。

## 履修上の注意

イギリスの文化、風習、歴史に興味のある人、その分野の知識をこれから身につけてみたい人であれば歓迎する。授業では日本語の総合的な力を伸ばすことを目的とし、日本語で書かれたプリントを使用するため、当然ながら英語の語学力が問われることはない。

## 予習・復習

日本語の運用能力を高めるために、予習として予め与えられた資料の講読、発表の準備を行い、授業後は、予習の段階で理解が及ばなかった箇所を中心にもう一度資料を読むとともに、書いた文章の不備や自分が行った発表でうまくいかなかったところを確認する。

## 評価方法

授業内での発表（秋期）（30%）、レポート（春期・秋期各一回）（50%）を重視し、さらに学習に対する姿勢（20%）も考慮に入れて、総合的に評価する。

## テキスト

特になし。ハンドアウトを配布する。適宜、参考書を紹介する。

## 授業概要

この授業では平安時代中期の歌物語である『伊勢物語』の輪読を行う。『伊勢物語』は、在原業平に擬せられる主人公「男」の一代記の体裁を取る。一つ一つの章段は短く、読みやすい上に面白い。後世の文学作品に大きな影響を及ぼした作品であり、一度は触れておきたい名作である。

とはいえ、一般的に一二五段からなる『伊勢物語』を通読するのは難しいので、特に有名な章段に絞って輪読する。教科書には、主に教員を対象とした参考書を用いる。語句や先行研究について簡単にまとめられているので、それを補助線として「問題のありか」を見分ける力を身につけよう。

各学期の後半には、自分が気になった問題について発表を行ってもらおう。三年次の専門演習にむけて、基礎的な発表の技術についても学んでほしい。

## 授業計画

第 1 回	ガイダンス	第 16 回	六九段「狩りの使ひ」を読む
第 2 回	初段「初冠」を読む	第 17 回	九段「東下り」を読む
第 3 回	四段「月やあらぬ」を読む	第 18 回	八二段「渚の院」を読む
第 4 回	先行研究の調べ方・資料の作り方	第 19 回	八三段「小野の雪」を読む
第 5 回	六段「芥川」を読む	第 20 回	一〇七段「涙川」を読む
第 6 回	二三段「筒井筒」を読む	第 21 回	一二五段「つひに行く道」を読む
第 7 回	二四段「梓弓」を読む	第 22 回	学生発表①
第 8 回	学生発表①	第 23 回	学生発表②
第 9 回	学生発表②	第 24 回	学生発表③
第 10 回	学生発表③	第 25 回	学生発表④
第 11 回	学生発表④	第 26 回	学生発表⑤
第 12 回	学生発表⑤	第 27 回	学生発表⑥
第 13 回	学生発表⑥	第 28 回	学生発表⑦
第 14 回	学生発表⑦	第 29 回	学生発表⑧
第 15 回	学生発表⑧	第 30 回	学生発表⑨

## 到達目標

- ①『伊勢物語』について、どのように読まれてきたか、どこに論点があるかを理解できるようになる。
- ②情報メディアセンターを利用して辞典や文献を調査できるようになる。
- ③授業中に示した形式で発表資料を作成できるようになる。

## 履修上の注意

事前知識は無くてもかまわないが、一年を通して古典文学を扱うことを理解しておくこと。

授業中に意見を求める場合があるので、当てられた時には何かしら答えること。なお、受講者数によって授業計画を変更することがある。

## 予習・復習

詳しくは初回に説明するが、教科書の一部を事前に読んでおく。授業中の解説を聞いても理解できなかった箇所は、教科書を読み返して復習する。

## 評価方法

授業への参加度（30%）・発表内容（70%）によって判断する。

## テキスト

- ・教科書名：『学びを深めるヒントシリーズ 伊勢物語』
- ・著者名：早稲田久喜の会編著
- ・出版社名：明治書院
- ・出版年（ISBN）：2018年3月（4625624517）

## 授業概要

<カルチュラル・スタディーズ 映像社会と現代文化の解説>

映画や小説やアニメーションなどのサブカルチャー的テキストを考察し、そこに潜んだ文化的無意識を追求してゆく。サブカルチャーを現代社会を鮮明に映し出す鏡として読み解きたい。たとえば、『アナと雪の女王』におけるお姫様、クトゥルフ神話 SFにおけるロボットの進化、原発や東日本大震災と津波、原爆のキノコ雲、ゾンビ文化など、様々なテーマを探究したい。文化を反映する謎を秘めたテキストを読み解き、現代を理解できるリテラシーを養えるように指導する。

## 授業計画

第1回	自己紹介 ゼミの目的について	第16回	ゾンビ映画文化論
第2回	『鬼滅の刃』分析—鬼退治とは何か	第17回	『吸血鬼ドラキュラ』の文化史
第3回	竜退治の進化—『白鯨』から『ジョーズ』	第18回	女性の復讐の物語—『四谷怪談』
第4回	『バケモノの子』と『白鯨』	第19回	ボーイズラブ現象の謎
第5回	『アナと雪の女王』—アニメの変貌	第20回	ライトノベルの文化史
第6回	H・P・ラヴクラフト研究	第21回	新海誠の風景『秒速5センチメートル』
第7回	クトゥルフ神話の文化史『エイリアン』	第22回	『君の名は。』とタイムトラベル文化史
第8回	シンデレラの物語の変貌	第23回	ジブリと災害—『崖の上のポコ』
第9回	ディズニー映画の解説	第24回	ジブリと核文化—『風の谷のナウシカ』
第10回	災害と怪獣文化—ゴジラの文化史	第25回	ジブリと自分探し『千と千尋の神隠し』
第11回	『シン・ゴジラ』論—ゴジラの変貌	第26回	巨人退治の物語論—『進撃の巨人』
第12回	ゾンビ映画と資本主義	第27回	SF映画の進化論—赤狩りの映画史
第13回	オタクの文化史—『電車男』論	第28回	ハリウッドSF映画におけるキノコ雲
第14回	『不思議の国のアリス』とロリータ文化	第29回	原爆とアニメ—『この世界の片隅に』
第15回	『リング』と疫病恐怖	第30回	都市伝説の文化論

## 到達目標

- ・学生が様々な現代的トピックスを文化テキストの解説を通して、分析する教養を備えることができる。
- ・学生が現代社会を把握するためのメディア・リテラシーを習得することができる。

## 履修上の注意

楽しい授業にしてゆきたいので、積極的な参加を望みたい。資料を配布するのでファイルを持参のこと。普段から関心をもって本を読むように心がけてもらいたい。

## 予習・復習

配布した資料は事前に予習として必ず読み、授業後に再度読み直すこと。

## 評価方法

学期末レポート（60%）、提出物および授業中の発表や発言（40%）などの総合評価。

## テキスト

- ・教科書名：『ゾンビの帝国：アナトミー・オブ・ザ・デッド』
- ・著者名：西山智則
- ・出版社名：小鳥遊書房
- ・出版年（ISBN）：2019年（978-4909812124）

### 授業概要

本演習は3年次からの専門演習に向けての「予行演習」と位置づけられる。したがって、本を読むこと、そして口頭発表の練習や質疑応答に重点が置かれることになる。適宜、関連するDVDを視聴し意見交換も行う。

テキストは次の2冊を使用する。

① 外山滋比古『思考の整理学』

大学では専門的な知識を蓄えることが必要であることは言うまでもない。しかしながら他方で、知識の修得のみで満足するのではなく、蓄積した知識を活かしながら、人間や社会が直面するさまざまな問題を解決するために考え抜くということも、大学で学ぶ者にとっては大事なことである。本書を通じて、「思考」する際に役立つであろうヒントを得たい。

② 鹿野政直『近代国家を構想した思想家たち』

近代の日本思想を学んでいく。毎回日本の代表的な思想家を取り上げ、「国民」の形成、世界と日本、変革の思想などの問題を考えていきたい。

授業の進め方としては、受講者各人に割り当てをした上で、担当箇所の発表をしてもらう。読書の習慣や口頭発表の作法を身につけてもらえるようキメ細かく指導する。

### 授業計画

第1回	春期の進め方の説明	第16回	秋期の進め方の説明
第2回	『思考の整理学』の講読①	第17回	『近代国家を構想した思想家たち』の講読①
第3回	『思考の整理学』の講読②	第18回	『近代国家を構想した思想家たち』の講読②
第4回	『思考の整理学』の講読③	第19回	『近代国家を構想した思想家たち』の講読③
第5回	『思考の整理学』の講読④	第20回	『近代国家を構想した思想家たち』の講読④
第6回	『思考の整理学』の講読⑤	第21回	『近代国家を構想した思想家たち』の講読⑤
第7回	『思考の整理学』の講読⑥	第22回	『近代国家を構想した思想家たち』の講読⑥
第8回	『思考の整理学』の講読⑦	第23回	『近代国家を構想した思想家たち』の講読⑦
第9回	『思考の整理学』の講読⑧	第24回	『近代国家を構想した思想家たち』の講読⑧
第10回	『思考の整理学』の講読⑨	第25回	『近代国家を構想した思想家たち』の講読⑨
第11回	『思考の整理学』の講読⑩	第26回	『近代国家を構想した思想家たち』の講読⑩
第12回	『思考の整理学』の講読⑪	第27回	『近代国家を構想した思想家たち』の講読⑪
第13回	『思考の整理学』の講読⑫	第28回	『近代国家を構想した思想家たち』の講読⑫
第14回	『思考の整理学』の講読⑬	第29回	『近代国家を構想した思想家たち』の講読⑬
第15回	春期の総括	第30回	秋期の総括

### 到達目標

- ・本を読み、内容を的確に理解できる。
- ・レジュメ（発表資料）を作成したうえで、口頭発表を行うことができる。
- ・自分の意見を述べながら、議論ができる。

### 履修上の注意

- (1) 日本史、西洋史、東洋史、思想史関係の授業科目を積極的に受講すること。
- (2) 演習は学生主体で行われるものなので、全出席することが前提である。無断欠席は認めない。

### 予習・復習

- (1) テキストは毎回必ず各自事前に目を通しておく。
- (2) 発表に際しては、レジュメを作成する。
- (3) 授業で取り上げたテキストの箇所を読み返して、内容の理解を深める。

### 評価方法

授業に対する姿勢（発表準備や質疑応答への参加）80%、レポート 20%

### テキスト

- |                  |                      |
|------------------|----------------------|
| ・教科書名：思考の整理学     | ・教科書名：近代国家を構想した思想家たち |
| ・著者名：外山滋比古       | ・著者名：鹿野政直            |
| ・出版社名：ちくま文庫      | ・出版社名：岩波ジュニア新書       |
| ・出版年（ISBN）：1986年 | ・出版年（ISBN）：2005年     |



### 授業概要

本演習では3年次の専門演習に向けた準備をする（専門演習では4年次の卒業論文に向けた準備をする）。従って、特定の言語資料（新聞や漫画）を見定め、分析し、調べ物をする、それを発表資料にまとめ、口頭発表をすることといった、言語研究の基礎を身につけることを目標とする。授業の形態としては、最初に講師が分析の仕方などを詳しく示し、それに倣って準備期間を経て各自で発表するというものになる。

言語資料は古代から現代まで様々あるが、本演習では現代の新聞（文章語）および漫画（口頭語など）における書かれた言葉を資料とする。これらは国会図書館にも収められており、学術的に利用できる。

### 授業計画

第1回	授業の進め方の説明と資料の相談	第16回	漫画や新聞の分析の発表（13）
第2回	文体の概説①	第17回	漫画や新聞の分析の発表（14）
第3回	文体の概説②	第18回	漫画や新聞の分析の発表（15）
第4回	漫画や新聞の分析の発表（1）	第19回	漫画や新聞の分析の発表（16）
第5回	漫画や新聞の分析の発表（2）	第20回	漫画や新聞の分析の発表（17）
第6回	漫画や新聞の分析の発表（3）	第21回	漫画や新聞の分析の発表（18）
第7回	漫画や新聞の分析の発表（4）	第22回	漫画や新聞の分析の発表（19）
第8回	漫画や新聞の分析の発表（5）	第23回	漫画や新聞の分析の発表（20）
第9回	漫画や新聞の分析の発表（6）	第24回	漫画や新聞の分析の発表（21）
第10回	漫画や新聞の分析の発表（7）	第25回	漫画や新聞の分析の発表（22）
第11回	漫画や新聞の分析の発表（8）	第26回	漫画や新聞の分析の発表（23）
第12回	漫画や新聞の分析の発表（9）	第27回	漫画や新聞の分析の発表（24）
第13回	漫画や新聞の分析の発表（10）	第28回	漫画や新聞の分析の発表（25）
第14回	漫画や新聞の分析の発表（11）	第29回	漫画や新聞の分析の発表（26）
第15回	漫画や新聞の分析の発表（12）	第30回	漫画や新聞の分析の発表（27）

### 到達目標

- 書かれた言語資料を集めて分析することができる。
- 自分自身で日本語学の分野の発表の基礎的な準備をすることができる。
- 文章語と口頭語を対照しながら、その言語資料の文体の特性を複数見つけ出して論じることができる。

### 履修上の注意

「日本語の文法、日本語学（概論）、日本語学（各論）、日本語コミュニケーション、言語学、社会言語学」などの日本語学・言語学系の科目のうち少なくとも一部を既に履修しているか、並行して履修してもらいたい。特に「日本語の文法」は必須なので、未修なら並行履修してほしい。

### 予習・復習

授業は、各自が発表準備を間に合わせることを前提としている。各自発表に間に合うように努力されたい。発表の順番などは臨機応変に決める。受講者の人数次第で講義の回数や発表の回数を調整する。

### 評価方法

発表（80パーセント）、その他受講態度等（20パーセント）で評価する。

### テキスト

- 教科書は使用しない。
- 資料については以下のとおり。新聞や漫画は講師が分析済みの資料を配付する。新聞は「朝日新聞」の記事をエクセルに書き起こし、分析してある。漫画は複数の作品をエクセルに書き起こし、分析してある。